

全校生徒80名の挑戦と貢献

～ 地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえた地域貢献 ～

県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校

1 つるまい風の丘分校の概要と課題

県立市原特別支援学校の分校（知的障害 高等部 定員96名）として、平成22年に開校しました。卒業後の社会的職業的自立を目標に、園芸技術科では農業や園芸、流通サービス科では清掃、事務補助、接客等の知識・技術を学んでいます。目指す生徒像を「健康 思いやり 挑戦 貢献」という合言葉にし、生徒たちは常に意識して学校生活を送っています。

分校の課題は以下のとおりです。

- (1) 知的障害の生徒は「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない」（「知的障害のある児童生徒のための各教科に関連する資料」H28 2月文部科学省）という特性をもっているといわれています。そのため、「**学びを実際に応用する**」「**成功経験を積む**」「**主体的に取り組む意欲を育てる**」ことが課題です。
- (2) 分校の周辺地域は、人口減少と高齢化が顕著です。都市部の特別支援学校では校内カフェを作るなどして地域と交流していますが、分校の生徒が地域の方と交流するためには、生徒自ら積極的に学校の外に出ていく必要があります。

2 課題解決策としての地域貢献

開校以来、専門教科の学習で培った技術で地域貢献活動を地道に行ってきました。「南市原応援隊」（市原市の景観を守る活動・駅や鉄道に貢献する活動・地域の生活を支える活動）、「きれいを届け隊」（高齢者宅の除草整備）等です。地域貢献活動によって、「**学びを実際に応用**」し、「**成功体験を積む**」ことができます。

令和4年、高等部で新学習指導要領が実施となり、専門学科の各教科科目の目標として「**自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う**」ことが記載されました。そこで、生徒の「**主体的に取り組む意欲・姿勢を育てる**」ために、地域貢献の目標を「全校体制で繰り返し行う『挑戦』」「地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえた『貢献』」としました。

3 準備・実施段階の工夫

地域のニーズと、学んだことをどう生かしたいと生徒が思っているかを確認しました。

【地域のニーズ】R4, 5月～7月にインタビューを実施

- 「独居の高齢者が多く、野菜の移動販売は住民が楽しみにしている（民生委員）」
- 「地域の環境整備をしたいが人手不足。分校の生徒の力を借りたい（町会長）」
- 「コロナで中断した協働活動を再開し地域を盛り上げたい（地元企業担当者）」
- 「企業の社会貢献活動の一環として分校と共に活動をしたい（地元企業担当者）」
- 「特別支援学校や障害者の理解を深めていきたい（地元企業担当者、小中学校）」

【生徒のアイデア】R4, 5月にアンケート調査

- 「地域の人と清掃を一緒にしたい」 「出身中学校で清掃をしてみたい」
 - 「通学でお世話になっている小湊鐵道のために何かをしたい」
 - 「学校の周辺だけでなく、五井方面でも販売会をしたい」
- 等

また、地域の方に認められ貢献活動を継続させていただくために、「挨拶ができる・高い技術力をもつ・活動の内容を説明できる」の3点について、常に意識し身に付けていきました。

4 課題解決のための地域貢献

(1) 全校体制で繰り返し地域貢献活動に「挑戦」

地域ニーズを踏まえ、コロナ禍に止まっていた貢献活動を復活するとともに、活動の場を市原市外にも広げ、繰り返し行うことに挑戦しました。コロナ禍前より年間の回数を増やし、生徒全員が地域貢献活動に複数回参加しました。

令和4年4月～令和5年10月までの地域貢献活動の実績

令和4年 のべ38日・348人（月平均29人）年間生徒1人平均4.7回

令和5年（10月まで） のべ20日・199人（月平均28人）

<活動内容> R4～5

【地域の環境整備】

- ・地域の独居高齢者宅の除草・花壇整備（2回）
- ・国道297号線付近の除草整備（8回）
- ・オープンガーデン鶴舞桜が丘の除草整備（4回）
- ・千葉県循環器病センターの除草、花苗設置（7回）



独居高齢者宅の除草と花壇整備

【野菜や花苗の地域販売】

- ・地元スーパーでの花苗販売（5回）
- ・五井駅での野菜花苗販売会（2回）

【駅での活動】

- ・上総川間駅クリスマスイルミネーション設置・片付け
- ・五井駅に花苗プランターの設置（4回、設置期間R4 11月～）

【企業や公共機関での活動】

- ・南総公民館の図書整備、公民館だより発送補助（2回）
- ・淑徳共生苑（特別養護老人ホーム）清掃や花苗設置（8回）
- ・中学校の先生方の名刺作成（2回）
- ・中学校や高校の床洗浄、ワックスがけ（4回）
- ・地域サッカーチームの環境整備（8回）



オープンガーデン鶴舞桜が丘の除草整備

<苦勞したこと>

計画では更に多くの貢献活動をする予定でした。しかし、学校行事や野菜花苗の生育状況が合わなかったり、感染症による学年閉鎖で野菜移動販売等の活動を中止したりしました。

活動前は、職員が下見に行き作業工程を確認する等、多くの苦勞を乗り越えての活動でした。

つるまい風の丘分校の地域貢献活動は、地域及び生徒の日常風景となっています。

令和4年度末の生徒アンケートでは、「地域貢献にやりがいを感じた・今後も地域貢献をしたと思う」という生徒が92%でした。

全校体制で地域貢献活動を繰り返すことで、多くの生徒に意欲と主体性が育まれています。

（２）地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえた「貢献」

① 地域のスポーツチーム「VONDS市原（サッカーチーム）」の ホームグラウンドやクラブハウスの清掃

「地域の団体や地域の人と清掃を一緒にしたい」という生徒アンケートの結果を実現しました。市原市喜多にあるVONDS市原グリーンパークはサッカーグラウンド2面の広さがあり、普段は少ないクラブスタッフで広大な外周の除草や清掃をしているということです。令和4年度は4回、令和5年度は10月までに4回、クラブスタッフと共にグラウンド周辺の除草や、選手が使うクラブハウス内の清掃を行いました。

<営業御担当者の声>

「グラウンド周辺は草木がたくさんあり、スタッフだけでの除草作業はとても大変です。分校の生徒が来てくれて一緒に作業してくれるのはとてもありがたい。学校で学んだ知識や技術を実践する場として使ってもらいたい」

貢献活動の成果・・・「サッカー教室」

今回の貢献活動の御礼にと、令和5年2月にVONDS市原の選手が分校を訪れ、サッカー教室を開催してくれました。生徒は、地域貢献活動が自分のためにもなるのだということを実感し、さらに貢献活動を実施していこうという意欲を高めました。

<生徒の感想>

「自分たちの地域貢献活動がこのような交流につながり、とてもうれしかったです。選手の立ち居振る舞いやプレーの迫力を感じることができました」

「地域貢献活動は勉強の一環だと思っていたので、このようなサッカー教室が開かれるとは思っていませんでした。地域貢献は、自分のためにもなるということを学んだので、卒業後は自分の住んでいる地域も積極的に貢献活動をしていきたいと思いました。」

「今日、サッカー教室を経験することができて、改めて学校で学んでいる環境整備や清掃活動にやりがいを感じることができました。選手の方たちに、『また分校の生徒に清掃してもらいたい』と思ってもらえるよう精一杯勉強して学習の成果を発揮できるようにしたい」



グラウンドの除草整備やクラブハウス清掃を繰り返し行っています
サッカーチームが選手によるサッカー教室を開催してくれました



② 五井駅での野菜や花苗の販売会

「通学でお世話になっている鉄道会社のために何かをしたい」「学校の周辺だけでなく、五井方面でも販売会をしたい」という生徒のアイデアを踏まえ、令和4年7月、五井駅東口に新設された「こみなと待合室」で花苗と野菜の販売会を行いました。好評であったため11月には「こみなと待合室」の他、ホームでも販売会を行いました。地域との共生を目指す特別支援学校にとっては、**地域の方に学校を理解してもらう機会**になりました。また、会社にとっても地域の声を
得る機会になったということでした。

<駅の担当者の声>

「特別支援学校がどんなことをやっているのか分かりました。こんなに立派な野菜を作っているのかということに驚きました。販売場所を提供することによって、地域の方の声を会社としても知ることができる**良い機会**となりました」

貢献活動の成果・・・風の丘フラワーステーション

販売会を機に、生徒が植えた花苗プランターをホームに設置させてもらえることになりました。11月に「風の丘フラワーステーション」と題し、パンジーとビオラを植えた花苗プランターに生徒がデザインしたステッカーを貼付、小湊線ホームやJR五井駅通路に飾りました。登下校時には生徒が水やりをすることもあります。小湊鐵道のInstagramで取り上げていただきました。

ホームへのプランターの設置は令和5年も継続し、駅を利用する方に喜んでいただいています。生徒は通学で駅を利用する度に**自己肯定感を**高めています。

<生徒の感想>

「プランターの設置や販売会を行うことで、多くの地域の方に分校を知ってもらえてうれしいし、自分たちがかかわったものを飾ることができてやりがいを感じました」

「自分が育て、色合いを考えながら作った寄せ植えが飾られ、プランターを見て『きれいだね』『ありがとう』と声をかけられたことがうれしく、達成感を感じました。機会があれば夏の花でまた五井駅を飾りたいと思います」



五井駅ホームでの野菜・花苗販売会



ホームに花苗プランターを設置

③ 出身中学校にきれいを届け隊

「学んだビルクリーニングの技術で、出身中学校をきれいにしたい！」という生徒のアイデアに賛同してくださった中学校で、床の剥離洗浄、ワックスがけ、窓清掃等を行いました。また、中学校の特別支援学級の生徒に清掃技術を教え、一緒に活動しました。

事前打ち合わせは、生徒自身が中学校へ出向き、清掃場所の確認、道具の選択、時間内に行うことができる範囲はどこまでか等について検討、計画し、主体的に取り組みます。

令和4年は、市原市立三和中学校と市原市立南総中学校で実施しました。

三和中学校は、大雨による浸水で廊下に頑固な汚れが残り、長年取ることができなかつたそうです。生徒が2日間かけて剥離洗浄し磨いた結果、とてもきれいになったと大変喜ばれました。三和中出身の生徒が後輩の中学生と楽しく活動し、千葉日報でその取組が取り上げられました。

南総中学校では、特別支援学級の生徒にぞうきんの絞り方等を教えるとともに、洗剤の量を調整しながら老朽化していた会議室を洗浄・ワックスがけをして磨き上げ喜ばれました。

令和5年度も中学校2校、小学校1校で実施を計画しています。ある中学校では、生徒数が減少し人手が足りなくて、管理職の先生がお忙しい合間に廊下のポリッシャーをかける等しているということです。卒業生が清掃をしてくれることはとてもありがたいということでした。

出身中学校での活動は、生徒が他の貢献活動にも増して自身の成長を感じとり主体的に行動する姿がありました。

<生徒の感想>

「学校で学んだことを生かせる場所が自分の母校であることにとてもやりがいを感じました。中学生に教えるということはとても頭を使うし、教えながら清掃を行うということがとても良い経験でした」

「昨年まで一緒に勉強していた後輩たちと床洗浄を行うことは、自分にとって良い刺激となった。貢献活動が自分の成長につながると感じたので、今後も地域の役に立ちたい」



貢献活動の成果「小中学校との連携の広がり」

ア 新たな地域貢献活動の創出

これまで、流通サービス科の名刺受注作業の学習は校内にとどまっていたが、中学校から先生方の名刺の作成を受注することができ、納品する活動につながりました。

<生徒の感想>

「校内以外で初めて名刺の受注を受けて、一つ一つ丁寧に作成することにやりがいを感じ、注文してくださった方に喜んでいただけるような名刺に仕上げることに取り組んでいます。今後は他の中学校などからも注文を受け付けていきたいです」

イ 学校見学者の増加

中学校に分校の教育内容を深く知ってもらうきっかけになりました。学習指導要領では、学校運営上の留意事項として「地域における世代間の交流」「小中学校、高等学校及び大学などとの間の連携や交流・・・障害のない生徒との交流及び共同学習の機会を設け」とあります。この取組は、分校生徒の成長を中学校の先生方や生徒の皆さんに紹介するよい機会になっています。令和5年は小中学校からの見学者が増加する効果もありました。

5 地域ニーズと生徒のアイデアを踏まえた地域貢献活動の成果

- (1) 学んだことを実際に地域で使う貢献活動を繰り返すことによって、生徒は学校で得た知識が生きて役立つことを実感しました。
- (2) 地域の方に感謝されるという成功体験によって、生徒に自己肯定感が育まれました。そして、もっと学びたいという意欲や主体的に取り組む姿が育まれました。
- (3) 貢献活動に主体的に取り組む姿勢が、卒業後にも生きています。

卒業生が、生徒に清掃技術を教え、清掃活動を共にしています。令和5年度も卒業生が5回（トイレ清掃の指導、ビルクリーニングの指導、廊下剥離洗浄の指導3回）生徒に指導に来ました。夏には市原高校鶴舞グリーンキャンパスの床洗浄とワックスがけを卒業生と在校生が一緒に行いました。先輩から後輩へ「挑戦・貢献」のスピリッツが受け継がれています。

- (4) 地域の方が特別支援学校に深い理解を示してくれています。

例えば、学校周辺で道路工事が行われると、生徒の登下校を心配して学校に電話をくれたり、生徒の販売活動に期待する声をいただいたりしています。市原市内の小中学校からは、「ぜひうちの学校もピカピカにしてほしい」との依頼も受けています。

令和4年から5年にかけて、学校見学が増え、多くの小中学校等の先生方にも来ていただきました。市原青年矯正センター（障害のある入所者のための教育を行っていく予定）からも見学があり、分校生徒と清掃活動を行いました。

<令和4、5年の分校への見学>

- ・木更津市特別支援研究協議会
- ・市原青年矯正センター
- ・富津市教頭会
- ・袖ヶ浦市教育研究会
- 特別支援教育部会
- ・市原市教育研究会
- 特別支援教育部会



6 今後の方向性

地域貢献活動による成功体験で自己肯定感が育まれ、もっと学びたいという意欲や主体的に取り組む姿が生まれるというサイクルを繰り返し、社会的職業的自立へのスパイラルアップを目指していきます。

また、地域の方に障害のある生徒たちへの理解を深めてもらい、障害のある人となない人が協同する地域を作るきっかけにしたいです。高齢化率の高い地域の団地からは、定期的な野菜の移動販売を、地域のゴルフ場からは、花苗の植栽の要望を受けています。令和6年3月～5月に実施される「市原市おもてなし交流プログラム」では、会場となる旧内田小学校のクリーニングや花苗プランター設置をし、地元市原を盛り上げる活動を行う予定です。今後も、ますます、地域の方になくてはならない学校となっていきます。



7 広報・報道実績

活動を学校ホームページで発信しています。取組については、千葉日報、小湊鐵道株式会社、市民クラブVONDS市原のSNSで取り上げられました。また、千葉県循環器病センター、市原市立南総公民館の広報誌に取り上げられました。

学校ホームページ



地域貢献充実の日々

市原特支分校生

清掃、野菜販売に汗

市原市にある「県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校」の生徒が、日頃の学習成果を活用し、地域貢献活動を連日展開。市内のサッカー場で清掃奉仕、小湊鉄道本社では育てた野菜の販売に汗を流した。



①VONDSグリーンパークで清掃奉仕する県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校の生徒 ②こみなと待合室前では販売会を開いた＝市原市

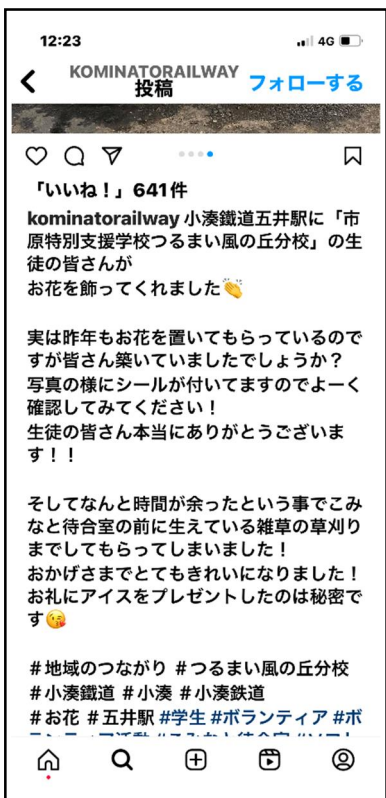
同分校は高等部専門学科型コロナウイルスの影響で、活動を校内に限られていた。ここ数年は新が、本年度は「コロナ対策」民との交流に力を入れる方

針に。希望する貢献先を生徒にアンケート調査した結果、昨年度まで学校に在籍していた講師が所属する「サッカークラブ・VONDS市原」と、普段通学で利用している「小湊鉄道・バス」を対象に活動することを決定した。

初日は、流通サービス科の生徒がクラブのホームグラウンド「VONDSグリーンパーク」に出向き、室内清掃に取り組んだ。生徒は3グループに分かれフロアやトイレ、窓を掃除。窓

清掃では水滴を取り除く道具を使用し、拭き残しがないうよう丁寧に作業を進めた。3年女子生徒は「学校で勉強している清掃技術を校外で生かした。感謝され、頑張ってきた良かったと感じた」と充実した表情で語った。

2日目は、園芸技術科の生徒が小湊鉄道本社にある「こみなと待合室」を訪問。「真夏の収穫祭」と題し、丹精込めて栽培したトウモロコシやトマトなどの新鮮な夏野菜や、花の苗の販売会を実施した。2年男子生徒は「自分たちが作った野菜を地域の方に買ってもらうことができてうれしい」と喜んで



小湊鐵道のInstagram 令和5年7月15日

出身中学 ピカピカに

市原特支つるまい風の丘分校生

学んだ清掃技術で貢献

市原市の「県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校」の生徒2人が、日頃学んでいる清掃技術を地域貢献活動に生かそうと、出身校の市立三和中学校を訪れ、清掃ボランティアに汗を流した。なかなか落ちない汚れを丁寧に取り除き、母校をピカピカにした生徒は充実感に満ちていた。

分校は高等部専門学科を「社会貢献活動のアンケート」設置しており、生徒を対象として調査を実施した。流通サー



中学生に指導しながら清掃ボランティアに取り組む風の丘分校生(前列左)ら。市原市の三和中学校

ビス科に通う1、3年生の男子生徒2人は「出身校に行つて清掃したい」と希望。ポリッシャー(電動清掃機)などの必要な道具やタイムスケジュールを打ち合わせ、準備を進めた。出張清掃当日、2人は中学校の特別支援学級生に清掃の手順やコツを教えながら、廊下を中心に作業を進めた。1年生は「昨年まで一緒に勉強していた後輩と協力

病院敷地等での環境整備活動を紹介します

当センターは恵まれた自然環境の中に立地していますが、その一方で、病院機能の維持のためには、植栽の管理等、日々の環境整備が欠かせません。環境整備については、当センターが実施するものほか、多

鶴マイハート便り
(千葉県循環器病センター広報誌)
令和4年9月

当センターは定期的に実施しており、本年は5月20日と9月16日に、正門近くの花壇や植込の手入れを行いました。

また、今年度から、市原特別支援学校つるまい風の丘分校の園芸技術科・流通サービス科の生徒さんが、授業の一環として定期的に、正門近くの花壇や、バス停裏の前庭の整備をしてくださっています。

このほか、鶴舞町会の環境整備の取組として、年2回、病院入口の県道交差点から病院正門に至る道路両脇の草刈をさせていただいております。

ボランティアや関係者の皆様の活動に心から感謝申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。

病院ボランティアについては、現在、新型コロナウイルス感染対策のため、新規募集を見合わせていますが、環境整備活動に興味のある方は、センター事務局までお問合せください。



市原特別支援学校つるまい風の丘分校の生徒さんの活動の様子



ボランティアが整備してくださっている花壇(上)と中庭(下)の様子



9/18に鶴舞町会で病院に向かう道路両脇の草刈をしてくださりました

しながら床洗浄することができ、とても良い刺激になった」、3年生は「学校で学んだことを生かせる場所が自分の母校であることに、とてもやりがいを感じた」と述べた。恩師の中学教諭は「立派になった生徒の姿が見られ、たつたに、廊下まできれいにしてもらった」と喜んで

(第三種郵便物認可)

クラブハウス
清掃ありがとう!

選手が感謝のサッカー教室

クラブハウスを清掃してくれたお礼にと、地元サッカークラブ「VONDS市原FC」の選手が、市原市の県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校を訪れ、サッカー教室を開いた。生徒は選手と楽しくプレーしながら、競技の魅力を体感していた。

VONDS市原

年度4回、市内にあるホームグラウンド・VONDSグリーンパークを訪問。クラブハウスの清掃や草刈り作業などの奉仕活動をしたのをきっかけに交流が生まれ、サッカー教室が実現した。

この日は吉田力也、鬼島和希、栗林純、加藤勇司の4選手とスタッフ2人が来校し、2、3年生を対象にフットサルを実技指導。前半はコミュニケーションゲ

特支校生と楽しくプレー



VONDS市原FCの選手(中央)とプレーを楽しむ生徒＝市原市の県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校

ームと基礎練習、後半は練習試合を実施し、生徒と選手と一緒にボールを追いつながら、心地よい汗を流した。

市民クラブVONDS市原アカデミー VONDSソフトボール

CLUB TEAM MATCH CALENDAR FAN ACADEMY SCHOOL

日頃よりVONDS市原への温かいご声援、誠にありがとうございます。

2(6月)に県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校へVONDS市原FC選手が訪問し、サッカー教室を開催いたしました。

県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校について

県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校は園芸技術科と流通サービス科の2つの職業学科が設置されています。職業教育を中心とした教育課程を組み、将来の職業人としての資質を育成する学校です。

HP: <https://www.chiba-c.ed.jp/chiharatsurumai-sh/>

開催に至るまで

昨年度、県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校 流通サービス科の皆様に、課外学習の一環としてVONDSグリーンパークにお越しいただき、グラウンド周辺の草刈り・施設清掃にご尽力いただいております。

そこでの繋がりから、クラブとして交流を深めることを目的とした学校訪問を行いました。

市民クラブVONDS市原ホームページ
令和5年2月17日

市民クラブVONDS市原アカデミー VONDSソフトボール

CLUB TEAM MATCH CALENDAR FAN ACADEMY SCHOOL

白熱したゲーム展開が続き、授業が終わる頃には学生の皆さんも汗だくに...
そして選手からも「思っていた以上にハードだった...」との声がありました。